

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
1	女 70代	統合失調症 (糖尿病, 慢性腎不全)	6g 16日間	低血糖 透析は5年以上前より週3回行っている。 本剤投与前のここ数ヵ月は、血糖 100 ~ 150mg/dL の間でコントロールされており、その値をはずれることはなかった。 投与開始日 本剤 6mg/日の投与開始。 投与12日目 午前、血糖測定検査。うとうとしている。 昼頃、血糖 25mg/dL。 低血糖症状みられ、50%ブドウ糖 40mL 静注。 5分後、血糖 299mg/dL へ回復。 昼食は摂取できず。 30分後、血糖 175mg/dL。 1時間後、血糖 84mg/dL へ下降。 5%ブドウ糖 200mL を点滴静注。 3時間後、血糖 33mg/dL。 50%ブドウ糖 20mL 静注。点滴内に 50%ブドウ糖 20mL を混注。 4時間半後、血糖 64mg/dL。点滴速度 up。 夕方のヒトインスリン(遺伝子組換え)は中止。 夕食は濃厚流動食のみ摂取。
				投与13日目 早朝、血糖 81mg/dL。点滴終了。 昼頃、血糖 116mg/dL。 夕方、血糖 247mg/dL。 この日は3食全量摂取。
				投与15日目 昼頃、血糖 34mg/dL。 シュガー5g 摂取。
				投与16日目 昼頃、血糖 61mg/dL。 (投与中止日) 食事何とか摂取。
				中止1日後 午前、血糖 45mg/dL。 グラニュー糖 10g 摂取。 昼頃、血糖 30mg/dL。 5%ブドウ糖 200mL を点滴静注。 本剤中止とした。(最終投与日: 投与16日目)
				中止2日後 以降、血糖 100 ~ 150mg/dL の値でコントロールされており、低血糖にはなっていない。 経過中も通常通りに透析していた。
				中止7日後 低血糖は回復。
				併用薬: ヒトインスリン(遺伝子組換え), アスピリン・ダイアルミネート, カルベジロール, センノシド, ファモチジン, ニフェジピン, レバミピド, メコバラミン, リスペリドン

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
2	男 1歳 未満	母体 統合失調症 (なし)	(経胎盤) 18mg 107日間 (経乳) 18mg 6日間	傾眠傾向
				(母体経過) 喫煙：10本/日<妊娠中：中止> 飲酒：なし 過去の妊娠歴：なし 投与134日前 (母体経過) 最終月経日
				投与開始日 (母体経過) 本剤18mg/日投与開始。 妊娠22週+6日。 (母体経過) 妊娠中の状況：正常
				投与107日目 (出生日) 骨盤位のため選択的帝王切開術にて出生。 出生時、自発呼吸を認めず、sleeping baby (約1分間)であった。 一過性の傾眠傾向が発現。 Apgar Score 1分値2点。酸素マスクによる陽圧換気を行い、自発呼吸が出現。 以後、自発呼吸問題なく経過した。 Apgar Score 5分値9点。哺乳状態も良好である。 本剤の血中濃度(臍帯血1回目)：96.4ng/mL 本剤の血中濃度(臍帯血2回目)：93.7ng/mL (母体経過)分娩。妊娠38週+0日。分娩法：帝王切開、分娩時の状況：正常、母体の状態：正常 本剤の血中濃度(術直後母体血)：181ng/mL (新生児経過)性別：男児、Apgar Score：(1分)2点、(5分)9点、身長：53cm、体重：2866g、頭囲：32.5cm、先天性異常：なし、その他の異常：一過性の傾眠傾向が発現。
				投与112日目 (母体経過) 本剤の濃度(母乳)：29.5ng/mL
投与113日目 (新生児経過) 授乳の状況：あり(授乳期間：投与108日目～投与113日目)、有害事象の再発：なし。 本剤の血中濃度(児血)：7.59ng/mL (母体経過) 本剤の濃度(母乳)：38.7ng/mL (母体経過) 本剤は継続中。				
併用薬：酸化マグネシウム，大腸菌死菌・ヒドロコルチゾン，ピコスルファートナトリウム水和物，アジスロマイシン水和物，クエン酸第一鉄ナトリウム，リトドリン塩酸塩				